

みなさん、こんにちは。

甲子園では連日熱戦が繰り広げられ、兵庫県代表の東洋大姫路もベスト 8 に進出しました。暑い夏に数々のドラマを生み出す高校球児の活躍もさらに盛り上がりを見せてきます。

1. 昆虫絵画コンクール表彰式

8月13日(日) 11:00より「昆虫絵画コンクール」の表彰式を行いました。最優秀賞・優秀賞・佳作を受賞した子どもたちと保護者のみなさんが参加され、各作品の講評と賞状授与がありました。今回審査をしていただいた花房完昇さん(錦城中教頭)は、講評の中で「子どもの持っているエネルギーが画面に出ている作品、表現方法の豊かさや工夫・個性を基準に審査しました」と話し、ひとりひとりの作品について細かいコメントをつけていただきました。



花房完昇さんの講評



山下館長より賞状の授与



作品の前で記念撮影

空想・観察・日記風など、いろいろな手法で描かれた作品は去年よりもレベルアップし、応募作品数も倍増しました。「最近、子どもが絵を描く機会が少なくなっています。絵は文字と同じように自己表現のひとつですから、描く経験をたくさん積めば線が美しくなってきます。子どもたちに絵を描く機会をしっかりと与えてください」と花房完昇さんから保護者の方へのメッセージがありました。

昆虫絵画コンクール作品展 8月20日(日)まで 2階ギャラリー(観覧無料です)

2. ユース昆虫研究室2006 夏の明石公園で

8月13日(日)ユース昆虫研究室の中学生たちが集まり、暑さの厳しい明石公園で昆虫観察と採集を行いました。7月、八チ北高原での合宿を乗り切り、真っ黒に日焼けしてたくましくなった姿でお気に入りの昆虫目指して公園の中をくまなく歩き回っていました。この日一番の収穫は台湾ウチワヤンマだったようです。やはり明石公園は珍しい昆虫の宝庫みたいですよ。



長ぐつをはいて水の中にも



標本づくりも手馴れたもの



ケニアからの研修生(右)

この日は、ひとはく(県立人と自然の博物館)で研修中のフィビーさん(ナイロビから飛行機で30分のキスムにある公立博物館で教育プログラム担当)も一緒に活動しました。「キスムは標高1000mで気温は年中20 くらい、過ごしやすいですよ。日本のこの湿気の多さと暑さはまじりますね」と汗びしょりになって歩いていました。ケニアでは保護者も一緒に学ぶワークショップのようなプログラムが少ないようで、「勾玉作り」や「おりがみ教室」など文博での実践例を紹介すると興味津々の様子でした。来年2月までの研修で様々な実践例に触れてほしいものです。

ユース昆虫研究室の中学生たちは、できあがった標本を学校の宿題用に持ち帰っていきました。

昆虫標本の展示 8月20日(日)まで 2階ギャラリー(観覧無料です)